

かみじま歴史探訪

郷土の先輩たちシリーズ ⑫

勇吉のフィリピン群島漂流



バブヤン諸島周辺

松山藩領であった岩城と生名の記録によると、天保十五（一八四四）年、岩城の「船稼」は、二百二十六人、生名は五十六人とあります。当時の戸数からすると、大変な「船稼」の人数です。今治藩領の弓削や魚島も、漁業と海運が盛んな島でした。

遭難事件も多発しました。傷跡は芸予諸島の寺院の過去帳にも数多く見受けられます。その戒名には、「海」の一字が付けられているものが多く、中には同じ月日に十名前後、「海」の戒名が連なっている例もあります。けれども、幸運にも数年後に、無事送還されたいわゆる「漂流民」も多く出現しています。

幕末の嘉永三（一八五〇）年に遭難した摂津の国の大石村（現神戸市）の永力丸の乗り組みの中には、三名の芸予諸島の出身者がいました。一行は米国商船に救助されてサンフランシスコに上陸、のち日本への送還の途次、清国（中国）でペリー艦隊に移乗、うち一名はそのまま浦賀沖に來ています。生口島出身の仙八です。他の二人は、備後の因島（棕ノ浦）の亀藏と伊予の岩城島の民藏（帰国後、大吉）でした。

岩城島には、他にも「漂流民」がいます。その一人、勇吉は奥州八戸（現青森県）の融勢丸に乗務中に遭難して漂流します。この事件については、石井研堂編『異国漂流奇譚集』（福永書店、昭和二年刊）に「融勢丸唐流帰国記」が紹介されていますが、「原本の後尾失せて未だ類本を得ず」とあるように完結してなく、乗り組み員の名前も不明でした。

一方、融勢丸の一行が漂流後に無事に長崎に送還された文政十二（一八二九）年の長崎奉行所での取り調べの記録には、「松平隠岐守領分、予州岩城村融勢丸水主：勇吉、子（文政十一年）十二月二十六日、揚り屋（取り調べのための牢屋）入り」（『日本漂流漂着史料』荒川秀俊編、地人書館刊）と記録されています。岩城村にも「融勢丸乗組員口書」が保存されています（『岩城村誌』上巻に全文所載）。ただ、この「口書」の最初の部分に「私共唐国へ漂流仕（つかまつ）り候処」とあり、救助された船舶も、「フクケン（清国の福建省）の船にて」と清国が支配していた地域への漂流に限られた内容です。ギリシタン問題への配慮からの申告だったのでしょうか。

愛媛県立図書館には別の漂流記も寄託されています。増田文書第九巻所載の「豫州松山領越智郡岩城村勇吉漂流記」です。この文書には「…岩城島勇吉文政十亥（一八二七）年、奥州（現青森県）八戸、石橋徳右衛門船に乗り組み、難船に及び異国まで漂流」とあり、中国（清国）に限定されていません。それにしても、岩城島の船乗りが、どうして奥州八戸の融勢丸で「異国」まで漂流したのでしょうか。「勇吉漂流記」を要約すると次のようです。

芸州豊田郡の大長（現広島県豊田町）で生まれ、幼年のころ岩城島で養育され、同村の彦七郎の養子となりました。十五歳くらいから船稼ぎを始め、二十六歳からは船稼ぎに専念します。文政九（一八二六）年に播州（現兵庫県）高砂の船に乗務して奥州の南部藩の宮古（現岩手県）まで行った際に病氣となり、同所で休養、回復したのち、奥州八戸の石橋徳右衛門の持ち船、融勢丸に乗務中に次のように遭難、漂流後に無事故国へ送還されました。

文政十（一八二七）年六月、江戸に向け八戸を出航
同年七月中旬に江戸の品川に到着、同下旬同地発
同年十月、十一月、平湯（現茨城県）で日和待ち
同年十二月二日、出航後しけで七十余日漂流
翌年二月十一日、ルソン島南部のバブヤン島漂着

その後、五月二十八日に唐国（清国）の福建の船によって中国本土の温州に到着、勇吉等六名は清国の商船、得待号で長崎に送還され、長崎奉行所を取り調べを受けたのちに、松山藩に引き渡され帰国しています。奉行所の「犯科帳」には、「勇吉、子（ね、文政十一年）十二月二十六日、揚り屋入り、丑（うし、文政十二年）十月五日、無事国元へ差し返し、隠岐守（松山藩主）家来へ引き渡す、…もつとも隠岐の守領分より外へみだりに住居致すまじく」と帰国後の生活範囲は限定されています。

でも、漸く郷里に帰ることができた勇吉は、貴重な海外での見聞を語り伝えることもできないうちに、文政十二（一八二九）年十一月二十四日に死去して岩城島の曹洞宗の寺院宝蔵寺に葬られた模様です。同寺に保存されている史料にも「彦七養子勇吉事」と記載されています（石井一行住職談）。県立図書館の「勇吉漂流記」の「彦七養子」と完全に一致しています。まだ三十三歳の生涯でした。



岩城の宝蔵寺（曹洞宗）

弓削商船高専・岡山商科大学名誉教授

村上 貢 稿

上島町 2月 行事カレンダー

1日 火	保育所入所申込受付（各総合支所・保育所～10日）、人権相談（せとうち交流館9:00～12:00）、スポレク体育館休館、郷土館休館
2日 水	
3日 木	
4日 金	上島町各中学校少年式
5日 土	
6日 日	生名橋開通式
7日 月	潮湯休館
8日 火	行政相談（黒瀬委員宅9:00～12:00）、スポレク体育館休館、郷土館休館
9日 水	
10日 木	心配ごと相談（弓削福祉センター10:00～12:00）
11日 金	建国記念の日 郷土館休館
12日 土	
13日 日	いきなスポレク（温水プール・アリーナ無料開放）
14日 月	潮湯休館
15日 火	スポレク体育館休館、郷土館休館
16日 水	行政相談（せとうち交流館9:00～12:00）
17日 木	行政相談（生名公民館10:00～12:00）
18日 金	人権相談（魚島開発センター10:00～12:00）
19日 土	
20日 日	
21日 月	潮湯休館
22日 火	スポレク体育館休館、郷土館休館
23日 水	
24日 木	
25日 金	
26日 土	
27日 日	
28日 月	潮湯休館

祝 生名橋開通

第24回いきな島一周マラソン大会 参加者募集

- ★開催日時：3月13日（日）9：30開会式
- ★会場：生名立石港多目的広場周辺施設
- ★種目：3km、5km、10km（5km・10kmは、男女及び年齢別に各5部門に分けて表彰）
- ★参加料：【一般】2,000円／人、【中高校生】1,000円／人（ただし3kmは、300円）
- ★申込締切：2月10日（木）消印有効
- ★主催：いきな島一周マラソン大会実行委員会
- ★申込先・問合せ先：
〒794-2550 愛媛県越智郡上島町生名620番地
上島町教育委員会生名支所及び生名公民館
TEL 0897-76-2123又は76-2223

戸籍だより 12月分

婚姻 いつまでもお幸せに

おくひら 奥平 浪切 × 弘達（弓削） × 砂川 濱崎 × かな 香奈（岩城） × しまみ 寿美（弓削）

死亡 ご冥福をお祈りいたします

もともり 元森 イツ子 12月2日 73歳（弓削）
おおもとのぼる 大本 昇 12月3日 71歳（生名）
はやし 林 タケノ 12月3日 88歳（岩城）
わけ ゆきみ 和氣 幸美 12月24日 75歳（弓削）
たけばやし たかゆき 竹林 孝之 12月28日 68歳（弓削）
むらかみ 村上 カメコ 12月29日 95歳（生名）
かわもと ただお 河本 忠雄 12月29日 84歳（弓削）

人口の動き 平成22年12月31日現在

区分	男	女	合計	世帯数
弓削	1,659 (▲10)	1,735 (▲4)	3,394 (▲14)	1,803 (▲7)
生名	837 ()	972 (▲2)	1,809 (▲2)	896 (▲1)
岩城	1,047 ()	1,052 (▲5)	2,099 (▲5)	963 (▲2)
魚島	119 ()	117 ()	236 ()	135 ()
合計	3,662 (▲9)	3,876 (▲11)	7,538 (▲20)	3,797 (▲9)

() 内は前月比

※戸籍だよりにつきましては、上島町各総合支所窓口へ届け出にいられた方で、掲載の了解をいただいた方のみを掲載しています。なお、町内外の方で掲載をご希望の方は、上島町各総合支所住民課へご連絡ください。

- 弓削総合支所 住民課 TEL 0897-77-2500
- 生名総合支所 住民課 TEL 0897-76-3000
- 岩城総合支所 住民課 TEL 0897-75-2500
- 魚島総合支所 住民課 TEL 0897-78-0011

【寄附（敬称略）】 1月12日までの受付

次の方に寄附をいただきました。紙上より厚くお礼申し上げます。

- 山崎 保彦 10万円 ふるさと納税
- 和氣 一郎 10万円 児童福祉のために
- 青木 廣光 10万円 社会福祉のために

お詫びと訂正

1月号の広報において次のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正します。

- P16 イノシシの捕獲実績報告

【誤】平成23年3月⇒【正】平成22年3月